

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M212Q403		慢性・終末期看護学実習 (Clinical Practice in Chronic and End-of-Life Nursing)					成人看護学							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	3	4	医学部	前	他	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 脇幸子・大野夏稀・加隈哲也・末弘理恵・佐藤昂太郎・井上亮													
	E-mail syamasit@oita-u.ac.jp 内線 5052													
授業の概要	対象の疾患や障害による日常生活への影響や治療と折り合いをつけながらどのように生活を変化させてきたのかを病みの軌跡として捉え、対象の健康の保持増進を目指したセルフケアを促進する支援としての個別的で系統的な看護を展開する基礎的能力を養う。その中で、対象が意思決定し医療に参画する事の意味を考える。また、対象の病みの軌跡における保健・医療・福祉の連携や協働の中で継続的に実施されている看護活動の実際について学び、チーム体制の中で、ヒューマンケアを基本とした看護実践、看護専門職として看護実践の在り方を探究し続ける能力を養うことをねらいとする。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	対象の病みの軌跡を通して、疾患や障害、治療が及ぼす健康レベルや生活への影響について、全人的に捉えたことを説明する。									○		○		
目標2	対象の病みの軌跡の中でとらえた全体像に基づき、セルフケア促進に向けて個別的で系統的な看護を実施する。								○	○		○		
目標3	対象の健康保持・増進・回復や一次・二次・三次予防に向けたヘルスケアシステムの中での看護活動の在り方について説明する。								○	○	○			
目標4	看護専門職として、根拠に基づいて、倫理的かつ主体的に看護実践をし、自己の看護を振り返り、看護観を表現できる。											○		○
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)									1	4	2	2		1
授業の内容														
1	実習期間:3週間													
2	実習場所:大分大学医学部附属病院(3階西・6階東西・7階東・7階西病棟、外来診療科、各種医療チーム)、大分ゆふみ病院													
3	実習方法:受け持ち患者を通しての看護実践、見学実習													
4	実習記録:慢性・終末期看護学実習所定の記録様式													
5	実習内容(1週目)外来実習、チーム医療実習、終末期実習、セルフケア体験、ロールプレイ													
6	実習内容(2週目)病棟実習													
7	実習内容(3週目)病棟実習、まとめの全体カンファレンス、自己評価面接													
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
ラーニング	A:知識の定着・確認		B:カンファレンス(学生と教員、臨地の看護師)				工夫その他の	主体的学修者としてのコンピテンシーを高めるために、日々のリフレクションを積み重ね、学生同士、学生と教員間の対話を大切にする。						
	B:意見の表現・交換	○	D:臨地実習											
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造	○												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	実習開始まで、自分自身の学習課題を明確にし、授業資料や教科書、文献等を用い知識・技術の復習を行う。(15h)												
	事後学修	日々の実習のリフレクションを行い、翌日の看護実践に向けて、計画の立案および知識・技術の復習を行う。(15h)												
	想定時間合計	30												
教科書	必要に応じて適宜紹介する。													
参考書	必要に応じて適宜紹介する。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習記録	80%	○	○	○	○						
	実習意欲・態度	20%				○						
		学生による自己評価（面接）と教員や実習指導者による他者評価を総合的に評価する。										

注意事項	詳細は看護学実習要項の慢性・終末期看護学実習および看護学実習要項《共通編》に準じる。											
備考	実習記録などの資料は、Noodleからダウンロードする。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	脇（看護師、慢性看護専門、大分LCDE）、大野（看護師・がん看護専門看護師）、加隈（内分泌代謝医師）、末弘・佐藤（看護師）、井上（脳神経外科医師）											
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○											
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	実習指導者（看護師）、臨地実習臨床講師・臨床准教授・臨床教授											
実務経験を いかした教育内容	脇・加隈・大野でセルフケア体験として食行動に関するバイキング体験、各実習場には臨床教授など実習指導者が配置され、学生がチームの一員となって看護実践に取り組めるように支援している。											